

# 国際通貨研レポート



Institute for International Monetary Affairs (IIMA)

公益財団法人 国際通貨研究所

## リリースから3年が経過したブラジル Pix の成果

公益財団法人 国際通貨研究所

経済調査部 上席研究員

潮田玲子

[reiko\\_ushioda@iima.or.jp](mailto:reiko_ushioda@iima.or.jp)

南米で最も経済規模が大きく人口も多いブラジル<sup>1</sup>では、金融システムの高度化等の構造的課題に取り組むべく、ブラジル中央銀行（以下、中銀）によって複数のテーマ及び施策が掲げられている<sup>2</sup>。そのうち「国内の金融システム及び決済システム内の競争の促進」というテーマでは、決済システムに関する施策の1つとして、新たなリテール即時決済スキームである Pix<sup>3</sup>の開発が挙げられ、2020年に導入された。本レポートでは、Pixの足元の普及状況と今後の展望について概説する。

### 1. Pix 導入によるブラジル国民の支払慣習及び金融包摂への影響

現金、カード（クレジットカード、デビットカード、プリペイドカード）等のリテール支払手段の取引件数及び金額の推移をみると、2020年までは請求書払・口座振替、カード決済、小切手・銀行振込が主流だったことが分かる（次頁図表1、2）。そこへ同年11月に個人や企業を対象とした中銀運営・管理のリテール即時決済スキーム Pix がリリースされると、2021年以降その割合は急増し、2022年には取引件数においてカード決

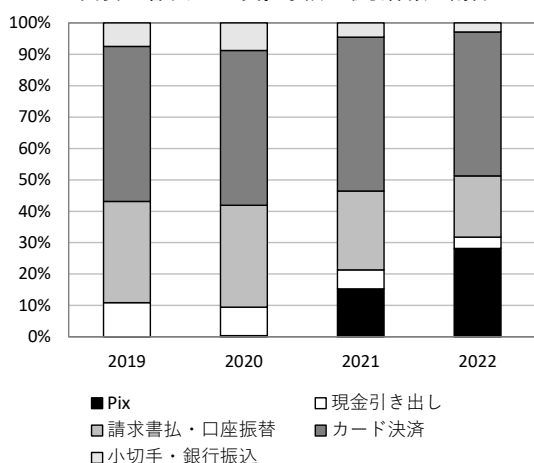
<sup>1</sup> 2022年の名目GDPは1.9兆ドルで世界第11位、人口は約2億人で第7位に位置する。

<sup>2</sup> 一連の取り組みはまとめて「Agenda BC#」と名付けられている。

<sup>3</sup> Pixは即時決済スキームの名称で、即時決済システム SPI（Sistema de Pagamentos Instantaneos/Instant Payment System）と、顧客口座情報に関するデータベース DICT（Diretório de Identificadores de Contas Transacionais/Transaction Accounts Identifier Directory）で構成される。

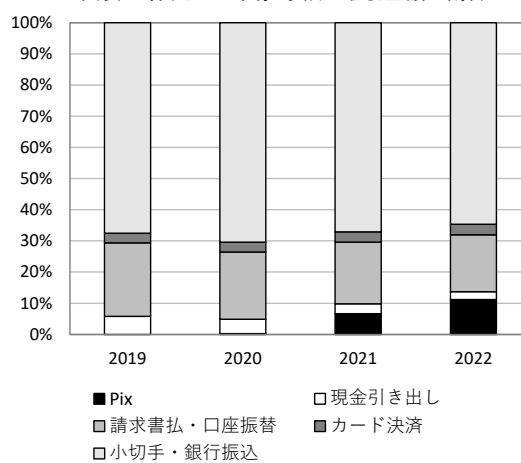
済（46％）に次ぐ割合（28％）に達した<sup>4</sup>。これに対し現金引き出し、請求書払・口座振替、小切手・銀行振込の割合は減少傾向にあり、なかでも銀行振込サービスの一種である DOC（Documento de Ordem de Crédito／Credit Transfer Document）や TEC（Transferência Especial de Crédito／Special Credit Transfer）<sup>5</sup>の減少が著しく、2024年1月の月間取引件数及び金額はともに前月の半分以下だった<sup>6</sup>。

図表1 各リテール支払手段の取引件数の割合



（資料）ブラジル中央銀行より国際通貨研究所作成  
<https://www.bcb.gov.br/estatisticas/spbadendos>

図表2 各リテール支払手段の取引金額の割合



（資料）ブラジル中央銀行より国際通貨研究所作成  
<https://www.bcb.gov.br/estatisticas/spbadendos>

Pix 導入の主な目的は、①安全・安価・利便性の高い顧客サービス、②リテール決済のデジタル化、③競争と効率性、④金融包摂、⑤誰でも利用可能なリテール決済手段等を促進することだが、とくに金融包摂に関しては一定の成果が早くも表れている。金融包摂に関わるデータの推移をみると（次頁図表3）、2021年における口座保有率やデジタル送金の経験率が2017年比で大きく上昇した。これは Pix の普及がもたらした結果と言える。なお、中銀によると2024年1月末までに Pix を利用したことのある個人は1.5億人（ブラジルの人口の7割超）にのぼり、今後さらなる利用者の増加が期待される。

<sup>4</sup> Pix による送金は平均 100 ドル未満の小口取引が中心のため、取引金額に占める割合は 11%にとどまる。

<sup>5</sup> DOC…上限額が 4,999.99 レアルの送金を指示する手段。資金は、銀行間決済の前営業日に送金人の当座預金口座より引き落とされる。

TEC…個人または企業が多数の受取人に対し給与等一連の送金を指示する手段。各送金の上限額は 4,999.99 レアル。資金は、銀行間決済の当日に送金人の当座預金口座より引き落とされる。

<sup>6</sup> <https://www.bcb.gov.br/estatisticas/spbadendos>

図表3 金融包摂の進展状況

	銀行等金融機関の 口座保有率	モバイル口座保有率	過去1年以内にデジタル送金を 実行または受領した国民の割合
2021年	84%	27%	77%
2017年	70%	5%	58%
2014年	68%	1%	59%

(注) すべて15歳以上の国民の割合

(資料) 世界銀行データより国際通貨研究所作成

## 2. Pix 普及の要因

Pix の主な特徴は次頁図表 4 の通りである。Pix 普及の主な要因は、安価な手数料や決済の即時性といった機能、多様なユースケース等利用者にとって利便性が高いこと、利用者のネットワーク効果を促進すべく、中銀が顧客口座保有数 50 万以上の大手金融機関等の参加を義務付けたこと、そして中銀自身がシステムの提供者かつ規制当局として Pix を推進したことが考えられる。Pix は、参加金融機関または決済サービス事業者（ノンバンク）が提供する各モバイルアプリやインターネットバンキング利用時に選択できる。送金人は受取人の Pix key（納税者番号、携帯電話番号、e メールアドレス、自動生成されるランダムな文字列のいずれか）を入力、または QR コードを読み込むだけで容易かつ即座に送金を実行できる<sup>7</sup>。個人の送金手数料は無料で、企業の場合は取引金額の 0.33%相当と安価である<sup>8</sup>。個人、企業、政府機関の相互間で送金が可能で、一部の時間帯を除き送金額に上限はない<sup>9</sup>。

また、Pix は新たな機能を順次追加予定で、例として定期的な自動引落（住宅ローン、サブスク、公共料金等）、他国の即時決済システムとの相互接続を通じた為替取引を伴うクロスボーダー送金、オフライン決済等が挙げられる。なかでもクロスボーダー送金に関しては、2023 年 2 月に中銀総裁がブラジル教育開発研究所（IDP）のイベントにてコロンビア、チリ、エクアドル、ウルグアイとの Pix の国際利用の可能性に言及しており<sup>10</sup>、国際利用の決済システムとしても Pix を推進していく姿勢がうかがえる。

<sup>7</sup> Pix の決済システム SPI は、既存の中銀 RTGS（リアルタイムグロス決済）システム SPR（Sistema de Transferência de Reservas/The Reserves Transfer System）とは別。流動性管理のため、両システムは相互接続している。

<sup>8</sup> 企業が支払う国内のカード手数料は、デビットカードが 1.13%、クレジットカードは 2.34%である。

<https://www.imf.org/en/Publications/CR/Issues/2023/07/31/Brazil-Selected-Issues-537331>

<sup>9</sup> 企業向けの手数料や送金額の上限は、参加金融機関等ごとに自由に設定できる。

<sup>10</sup> <https://www.brasilnippou.com/2023/230301-12brasil.html>

図表4 Pixの特徴

システム名	SPI (Sistema de Pagamentos Instantaneos)※
運営主体	ブラジル中央銀行
稼働開始	2020年11月16日
稼働時間	24時間365日
1件あたりの 取引限度額	前日20:00～6:00の時間帯の個人間送金は 1,000レアル(約200ドル)まで(不正送金防止の観点から)
可能な取引	送金、予約振込、ATM等からの現金引き出し
対応通貨	ブラジルのレアルのみ
規格	ISO 20022
参加機関数	812(2024年2月25日時点)
ユースケース	P2P、P2B、B2P、B2B、P2G、G2P、B2G、G2B、G2G
備考	※ポルトガル語で即時決済システムの意 Pixは即時決済のスキーム(枠組み)の名前

(資料) ブラジル中央銀行ホームページより国際通貨研究所作成

### 3. 今後の展望

世界各国の主な即時決済システムの普及状況を比較すると、IMFによれば、今やブラジルが最も早い普及速度（稼働年数に対する国民一人当たりの年間取引件数）を記録しているという<sup>11</sup>。一方で既存の支払手段の利用減少も加速しており、そのうち先述のDOC及びTECについては2024年2月末で終了することとなった<sup>12</sup>。当初中銀はPix導入により特定の支払手段を停止する意思はない旨述べていたものの<sup>13</sup>、結果的には優位性のない支払手段の存続が見直された格好だ。中銀は今後、さまざまな機能の追加とあわせてPixの利用をさらに推進していくと考えられるが、同時に、終了したDOCやTECといった支払手段を利用していた国民がPixに適用できるよう、中銀や金融機関等による適切な情報提供や広報活動が不可欠である。

中銀が手数料や稼働時間等において優位性のあるPixの導入を主導したことについて民業圧迫を懸念する向きもあるが、短期間で国民に広く受け入れられたことで、民間による新たなリテール決済サービスをめぐる開発競争、ひいてはイノベーションの促進につながることを期待される。国外利用を含め、Pixをとりまく今後のリテール決済の変化を引き続き注視していきたい。

<sup>11</sup> <https://www.imf.org/en/Publications/CR/Issues/2023/07/31/Brazil-Selected-Issues-537331>

<sup>12</sup> <https://forbes.com.br/forbes-money/2024/01/transferencias-bancarias-por-meio-de-doc-se-encerram-nesta-segunda-feira/>

<sup>13</sup> <https://www.bcb.gov.br/en/financialstability/pixfaqen>

2-7- “With Pix, are TED and DOC going to be discontinued?” (2024年2月26日閲覧時)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2023 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話 : 03-3510-0882 (代)

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <https://www.iima.or.jp>